

事務事業名	優良建設工事表彰事務				担当	総務部 総務課 契約検査係	
政策名	G	効率的で市民にわかりやすいまちづくり			電話番号	0285-83-8145	
施策名	4	健全な財政運営			☐ 実施計画上の主要事業		
基本事業名					事業期間	☐ 単年度のみ	
法令根拠	真岡市優良建設工事表彰要綱					☒ 単年度繰返（開始年度 平成3 年度～）	
予算科目	1. 一般会計	2. 総務費	1. 総務管理費	1. 総務管理費		☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）	
事業概要	施工技術や出来形・品質など、成績が優秀で他の模範となる建設工事を表彰し、建設業者の技術向上を図ると共に、建設工事の適正な施工を確保することを目的とする。 表彰は、前年度に完成した市発注の請負額130万円以上の建設工事を対象とし、その中から優秀な成績を収めたものについて、優良建設工事表彰審査委員会において選考し、その結果を基に市長が決定する。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 27年度実績 発注課の推薦 審査委員会で書類及び現地審査 審査結果を市長に報告 優良工事決定 表彰 28年度計画 発注課の推薦 審査委員会で書類及び現地審査 審査結果を市長に報告 優良工事決定 表彰				⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移 名称 単位 24年度(実績) 25年度(実績) 26年度(実績) 27年度(実績) 28年度(見込) ア 優良建設工事推薦・審査数 件 10 10 11 10 10 イ 表彰数 件 8 8 8 8 8 ウ エ オ						
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 前年度に完成した市発注の請負額130万円以上の建設工事				⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移 名称 単位 24年度(実績) 25年度(実績) 26年度(実績) 27年度(実績) 28年度(見込) ア 表彰対象建設工事数 件 213 126 141 127 127 イ ウ エ オ						
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 市内建設業者の技術向上意欲を高める。				⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移 名称 単位 24年度(実績) 25年度(実績) 26年度(実績) 27年度(実績) 28年度(見込) ア 意欲向上割合 % 100 100 100 100 100 イ ウ エ オ						
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 建設工事の適正な施工と品質を確保する。				⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移 名称 単位 24年度(実績) 25年度(実績) 26年度(実績) 27年度(実績) 28年度(見込) ア 標準成績以上（70点）の工事件数割合 % 79.3 84.1 87.2 81.1 81.1 イ 優良工事推薦基準以上（75点）の工事件数割合 % 24.9 31.7 36.2 38.2 38.2 ウ エ オ						
(2) 総事業費の推移				単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
			県支出金	千円	0	0	0	0	0	
			地方債	千円	0	0	0	0	0	
			その他	千円	0	0	0	0	0	
			一般財源	千円	92	112	113	103	135	
			事業費計（A）	千円	92	112	113	103	135	
	人件費		正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	
			延べ業務時間	時間	76	76	76	76	76	
			人件費計（B）	千円	319	309	321	318	318	
			トータルコスト(A)+(B)	千円	411	421	434	421	453	
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等										
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？		建設業者の技術向上を図ると共に、建設工事の適正な施工を確保することを目的に始まった。								
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？		当初は優良建設業者表彰としてスタートし、総合表彰3社及び一般表彰8社程度を表彰してきた。しかし、公共工事の減少に伴い、総合表彰の条件である年間5件以上の受注が困難となり、平成14年度から5年間は総合表彰の該当がなかった。 このため、平成19年度より総合表彰と一般表彰の区分を廃止すると共に、業者を表彰するのではなく、優良な建設工事を表彰するように改正した。								
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？		表彰が励みとなり、品質向上に対する意欲が高まる。（受賞者の意見）								

2. 1 次評価の部 ＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	☒ 結びついている ☐ 見直し余地がある 公共工事の品質向上につながる。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	☒ 妥当である ☐ 見直し余地がある 発注者である市が実施することにより、現場技術者の士気高揚や建設工事の品質向上及び技術向上が図られる。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	☒ 適切である ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある 公平に受賞の機会を与える観点から、全工事を対象にしている。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある 工事成績評定結果及び現地調査を基に、表彰審査委員会において適正に審査している。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響がある ☐ 影響がない 表彰機会がなくなり、業者の品質向上意欲が薄れる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	☐ 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） ☒ 類似事業はない 他に類似事業はない。
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	☐ 他の事業と統合・連携ができる ☐ 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 表彰事務に係る必要最小限の経費である。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか （アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 審査資料の作成のみで、最小限の人件費である。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	☒ 公正・公平である ☐ 見直し余地がある 全工事を表彰の対象としている。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☐ 見直し（ ☐ ：目的妥当性 ☐ ：有効性 ☐ ：効率性 ☐ ：公平性） ☐ 統合 ☒ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の 2 次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1 次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足（説明責任不充分） ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																						
			削減	維持	増加																				
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
(2) 2 次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																									
(3) 2 次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他 2 次評価会議で指摘された事項																								